岸和田市立光陽中学校

校長室より No.6

平成28年9月1日

校長　平松　明美

２学期も頑張れ！！　『チーム光陽』

～始業式の話から～

わたしにとって、今年の夏休みは、やはり、リオのオリンピックが最も印象に残っています。時差が１２時間ある関係で、どうしても、夜中から朝にかけて、起きることになり、毎日、寝不足の日が続いたのですが、どんなに眠くても起きて最後まで見届けようという気にさせてくれました。水泳、柔道、テニス、卓球、バドミントン、レスリング、陸上など、どれをとっても、作り事でない、ほんまものの真剣さの魅力には、何ものも勝てません。なかでも、今回は、体操男子の団体金メダルが、特に心に残りました。オリンピックというと、どうしても、体操もそうですが、個の強さがクローズアップされるように思いますが、今回の日本の体操団体は、日本の団体としての「和」の力が強みとして、とてもよくでていたように思います。エース内村選手にしても、個人総合で、これまでもあれだけの実績を残してきた選手ですから、そちらを優先して、団体に出場する種目数を多少、軽減してもよさそうなものですが、あえて、彼は、団体での金にこだわり、全種目に出場しました。その結果、予選での不調にもかかわらず、最後には、金メダルを手にすることができました。「体操」という本来、個人競技のスポーツが、彼の団体での金メダルに対するこだわりによって、他の選手の底力をも引き出し、だれかが、ミスしても、それをなんとか取り戻そうと、他の選手ががんばり、「最後まであきらめない」というチームの雰囲気を作りだしていった。だから、ひとりひとりの力をただ足し算しただけの力ではなく、プラスアルファの力が働いた結果、金メダルにつながっていったのだと思います。

ひとりひとりが、自分のやるべきことをきちんとこなせば、確かにある程度のことは、できるでしょう。でも、さらにもう一歩上をというとき、ひとりひとりが、どれだけ、他の人と、関わり、助け合い、高めあうことができるかにかかってくると思います。その見えない力が集団で何かをするときの面白さ、醍醐味だと思います。

二学期、クラスや学年で取り組む文化祭や合唱コンクールという大きな行事があります。まず、ひとりひとりが、かけがえのない「ひとり」として、関わっていってください。自分の持てるだけの力を出し切り、他の人のがんばりを認め合う、その時にきっと、勝ち負けに関係なく、今までに感じえなかった、心のつながり、感動を覚えることでしょう。そして、このことは、何も行事だけに限ったことではありません。日々の授業も団体競技です。皆で日々の授業を良いものにしようと頑張るから、全体の力が伸びていくのです。特に三年生は、これから、進路のことで思い悩むことも増えてくるでしょう。その時、他のクラスメートが頑張る姿に励まされ、ひとりでは、出しえなかった力を出せていけるということがあります。そういった意味で、特に二学期は、「光陽中学校」というチームが、どれだけ、力を出せるか試されるときです。みんなで心をひとつにして、しんどいことにもぶつかり、力を出し切ろうではありませんか。

≪１学期終業式での表彰より≫

・社会を明るくする運動　作文コンクール　優秀賞　　３－２　山本　若菜
・岸和田市春季市民戦　剣道　中学３年生女子の部　第３位　　３－２　岡田　芽依
　　中学１，２年生の部　第３位　　２－４　土井　郁芽
・泉南地区秋季大会　女子ソフトテニスの部　　第３位　　３－２　松本　涼佳　　３－４　岡村　日和

夏休み中、いろいろなクラブが、中体連の試合やコンクールの発表、作品完成などにむけて、よく頑張っていました。
部活動のときは、こんな良い表情をしているのだなと新たな発見をした人が何人もいました。
保護者の皆さまも、お忙しいなか、応援に来ていただき、ありがとうございました。
今日の始業式で表彰した分は、次回の校長だよりでご紹介したいと思います。

三年生は、いよいよ、二学期が始まり、自分たちの進路に向かって、真正面から向き合っていかなければなりません。一、二年生も、名実ともに、実り多き学期にしたいものです。
保護者の皆さま、どうぞ、今学期も、頑張る光陽中学校生たちにご支援よろしくお願いいたします。